

家傳 後清小納戸の頭小轉ノ其後故ありて  
同僚加藤勘十郎某と同ノ清勘氣と  
蒙りて忠公ハ兄半十郎忠治小めノ頭ノ  
る後五年小ノて赦免ありこれより清  
小性組の番士小列ノ寛永十年七月清  
代官小轉ノ六百五十石と知行ノ  
代官伊左友之助  
忠富祖より  
五月埴ノ忠雪ノ備前守忠次ノ五男あり

家傳 武藏小生ノ寛永ノ慶長十四年初ノ  
て駿河大納言忠長卿小附属せられ  
寛永譜  
家傳 中根日向守ノ組ノ入ノ清書院の番  
士ノ忠長卿ノあノせ給ひ  
てのち處士ノ寛永十二年  
十二月めノ  
大猷院殿小治ノえ奉ノ同十五年五百  
石の采地と賜りノ清書院の番士

とうり 寛永 慶安元年十二月十七日死

して法名一睡といふ其子五右衛門忠直

はてしめ百助といふ 家譜 正保二年九月

てしめ

大猷院殿小由人へ奉つし同四年十二月

清書院番とうり慶安二年遺跡とつ

く 清日記 忠直寛文十二年死  
つるしに嗣つて家絶也

五右衛門忠重八世十郎忠治う二男うり

保元うり家傳小  
忠直うり てしめ三郎といふ寛永

十六年二月てしめ

大猷院殿小并謁し正保二年十一月女

し出づる

嚴有院殿小附屬せしま三九清小性

とつし女 家譜 慶安二年九月清書院番の

列小入粟米二百俵と賜ひ 清日記 牧野を岐

守小属せしる

家傳 今の小普請伊奈  
幸う助惟忠う祖うり